

経営比較分析表（令和5年度決算）

和歌山県 串本町

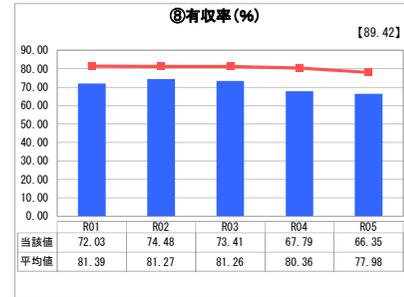
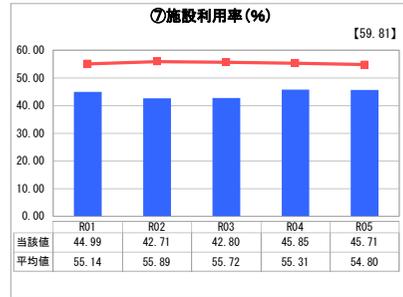
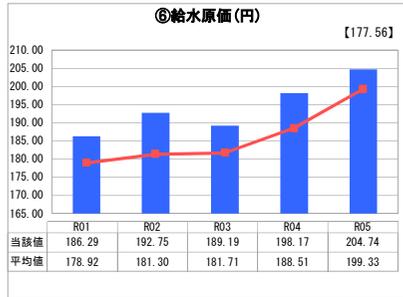
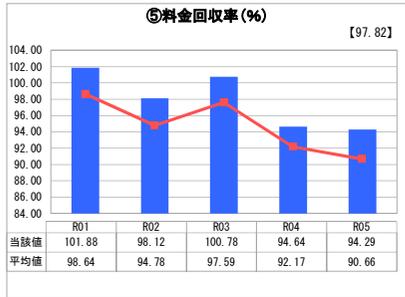
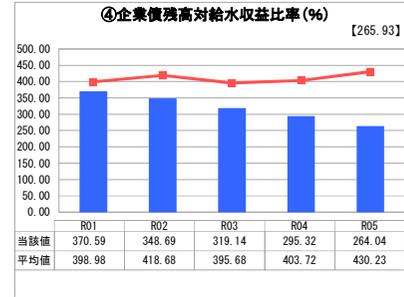
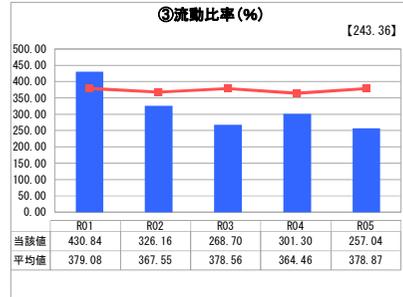
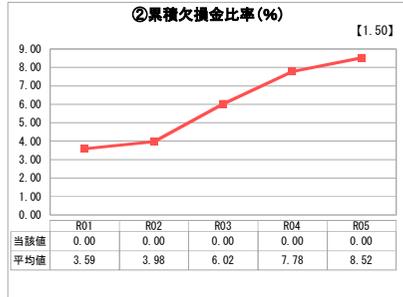
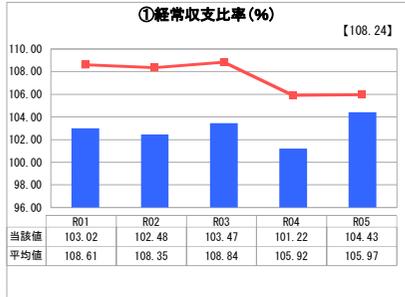
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	72.87	104.37	3,490	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
14,297	135.67	105.38
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
14,762	69.80	211.49

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経営の健全性については、経常収支比率が100%を上回り、欠損金も発生しておらず、その上、短期の支払い能力を示す流動比率も100%を上回り、健全性は保たれている。

しかし効率性については、料金回収率が昨年に引き続き100%を下回る事となり給水原価が類似団体の平均よりも高くなってしまっている。その増加の一番の原因は近年の電気料金の高騰であるが、その要因は漏水の増加によるもので経常費用の増加に繋がっており、有収率向上が急務であると考えられる。その対策として漏水調査員の漏水調査を継続して行い、有収率の向上による経営改善を図る必要がある。

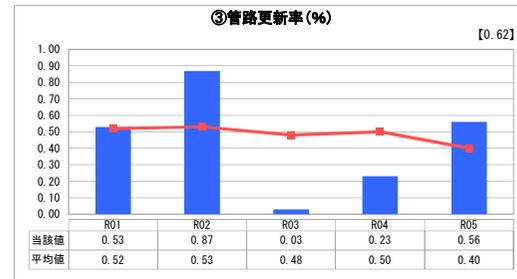
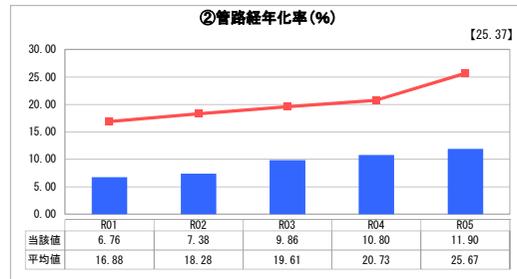
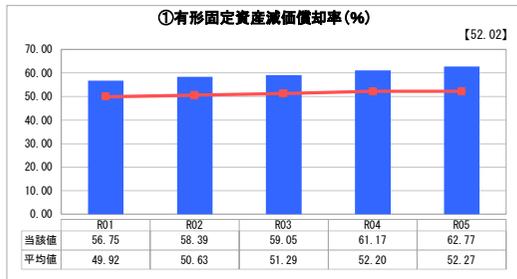
しかし、料金回収率の低下が常態化するようであれば、将来的に水道料金改定の検討を視野に入れなければならない可能性は払拭できない為、経費節減と合わせて更なる経営努力に努めなければならない。

また施設利用率については類似団体、全国平均を下回る結果となっている為、当町の地理的要因（土地が東西に長く住宅地が海岸線に点在している状態）に沿った、施設統合やダウンサイズを考慮していく必要がある。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率が62.77%と類似団体・全国平均と比べて高く全体的に老朽化が進んでいる状況であるため、修繕、補修等により現状維持に努めつつ更新が必要なものについては、計画的に更新を行っていく予定である。一方管路経年化率が11.90%と類似団体・全国平均を下回っている状態である。管路更新については財政状況を考慮し計画的に進めていく予定である。

2. 老朽化の状況



全体総括

料金回収率が100%を下回り続けているのが大きな課題である。人口減少による給水収益の減少も徐々に進んでいることから従来の経費の節減などの合理化の他、水道料金の改定も視野に入れて検討しなければならない可能性がある。

また施設の老朽化の更新費用も重なり経営状況が相当厳しくなっていることから今後も一層の経営改善に取り組み、健全な経営を行えるよう努める。